

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の職員会で理念の読み合わせを行い、理念の理解を深めている。	毎月の職員会で理念を読み合わせています。理念に沿った日々の関わり方を振り返られるように、チェック表に記入し意識しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域の常会に加入しており、できるだけ地域との交流や役割を持つようにしている。	地区の常会に加入して、ゴミ出しの立ち番を年間通して担っています。開所して20年になるので顔見知りが多く、回覧板を回したり野菜のお裾分けがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	積極的にはできていないが、要望や問い合わせがあれば、その都度できるだけ対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	主には報告を行い、意見やアドバイスはその都度、可能な範囲で取り入れている。	2か月ごと開催しています。利用者やホームの現状などの報告を行っています。前回の外部評価の結果を報告し、災害時の対応等のご意見をいただきました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時に連絡や相談を行っている。	昨年5月に実地指導があり、市の担当者の訪問にて具体的な指導を受けました。制度変更や不明な点などは必要に応じて、問い合わせや確認を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設置しており、身体拘束の防止に取り組んでいる。	法人の身体拘束防止委員会にて確認を合い、虐待防止を含め職員が講師になって学習会を行っています。不適切なケアがないか日々のケアを意識するようにチェック表を作り、週ごとや月ごとに振り返るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置している。学習会も行って虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象の利用者がいる場合に備え、必要な場合に取り組めるように知識としては理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、できるだけ丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や運営推進会議で意見などをお聞きするようになっている。	日頃から利用者の話をじっくり聞くようにしています。ご家族からは、面会時や運営推進会議参加の折にお聞きするようにして、運営に反映できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主には職員会で意見を聞き、運営に活かすようになっている。	年1回の職員個人面談が計画されていますが、毎月開かれる職員会で活発に意見や提案が出されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	できるだけ良い環境や条件で就労できるようにしたいと思うが、まだまだ改善点が多い状況だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要な外部研修は受けるようになっている。それ以外では学習会を行ってスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	必要時に連携している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	できるだけ本人や家族から話や要望をお聞きして、信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族から困っていることや要望をお聞きし、できるだけ不安がなくなるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の状況や、環境も含めた要因を把握したうえで判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を畳んだり、テーブルを拭いたりなどの役割を持っていただくことで、生活を共にしているという感覚を持っていただけるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にもできる範囲で支援をしていただき、ご本人との関係が遠くならないように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症が流行している場合を除き、できる限り面会や外出などに取り組み、馴染みの関係が続くよう支援している。	感染症の状況を見ながら、柔軟に面会を受け入れています。外出が難しい方が多くなりましたが、つながりが持てるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の利用者同士の言動を把握し、それぞれの関係性を理解して良い関係ができるように、またトラブルが起きないように支援にあたっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	希望に応じて、できる範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人とご家族からよくお話をきいて、希望や意向の把握に努めている。	日常の何気ない会話や利用者が見せる表情から、思いを汲み取るようにしています。個人の記録に残し、職員会で共有するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人とご家族からよくお話をきいて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	普段の様子や行動などから把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人とご家族からお聞きした意向に沿って、職員会議時にケア検討を行い、モニタリングや計画作成に取り組んでいる。	日々の関わりや発せられた言葉から思いを把握し、職員会で検討してケアプラン作成につなげています。日々の記録をもとに実施状況を確認し、3か月ごとモニタリング表を作成してプランの見直しを行っています。ご家族には入居時、更新時、面会時などに意向をお聞きしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の観察記録を記入している。その他、職員間の申し送りや職員会議での情報交換、連絡帳を用いて情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な範囲で、できるだけ取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご家族をはじめ、利用可能な地域資源の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人とご家族の希望に沿った、受診や訪問診療が受けられるように支援して取り組んでいる。	利用者や家族の希望するかかりつけ医になっています。今までのかかりつけ医に家族の付き添いで受診の方が2名、他の方はかかりつけ医の訪問診療を受けています。受診時は日頃の様子が見える様に情報提供しています。歯科は必要により訪問歯科に対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	必要時や訪問診療前には、医療機関へ受診時の参考になるように情報を伝えたり、書面での情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、普段の様子などをできるだけ詳しく医療機関へ情報提供している。退院時も連携を密にして、スムーズに退院ができるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人とご家族の意向を把握した上で、当事業所で可能な対応の範囲をご家族に説明し、主治医の意見や指示を受けたうえで取り組んでいる。	入居時に事業所でできることを説明し意向を確認しています。終末期に向かう時、再度アンケートを依頼して希望があれば主治医の指示を受け、職員間で情報を共有し、家族と連絡を密にして対応しています。今年1月に100才の利用者を看取りました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時や事故発生時の対応について学習会を行い、理解や知識を深めていくように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCP(事業継続計画)に沿った取り組みを行っている。地域の消防団との連携や地域の災害時の集会場利用など、できるだけ協力していただけるように取り組んでいる。	春と秋に防災訓練を行いました。運営推進会議などを経て、消防団との連携が動き始めています。来月には消防団の方の訪問が計画されており、施設の内部や利用者の状況をみていただくようになっています。	実際に災害が起きた時の勤務職員の行動や手順を具体的にしておくことで、職員の不安をなくすことにつながると思われます。地域との協力体制を築くことも継続しながら、夜間等職員一人の時まず何をしてどう動くか、実践に沿ったシミュレーションをして災害に備える事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の方への接し方について、各職員が自己チェックを行い、接遇の向上ができるように取り組んでいる。	職員会で話し合って作成した『笑顔で話す』『言い換え表を意識して声掛けできたか』など、10項目を毎週全員がチェック表に記入して貼りだしており、利用者への接し方を意識するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り、利用者の意向に沿えるように、また自己決定できるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時間的に職員側の都合に合わせてしまうこともあるが、可能な限りご本人のペースで過ごせることを心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握して食事を提供している。片付け等は可能な範囲で取り組めるように支援している。	食事の好みを把握して、三食職員が調理しています。季節の行事食やお赤飯、ちらし寿司等の誕生日の希望メニューも提供しています。餃子の皮を包んだり、食器を洗う、拭く等、できることを職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算はしていないが、個々の毎食の食事摂取量を把握するようにしている。また個々の好みや状態に合わせた食事形態や量を提供するように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後と就寝前に、それぞれの方の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご本人の希望や状態に合わせたオムツ類を使用して、トイレで排泄ができるように個々に合わせた時間で誘導等を行っている。排泄のチェック表を使用し、排泄の状況が把握できるようにしている。	トイレで排泄ができるように時間をみて声掛け、誘導をしています。排泄の状況を体調や食事量とともに記録し、共有しています。利用者に合ったおむつやパット類など、職員会で見直して検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のチェックを行って、便秘になっていないか把握できるようにしている。飲食物での排便コントロールはできないので下剤の調整を行って、定期的に排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	できるだけ希望に沿って入浴していただけるように取り組んでいるが、入浴の時間帯は職員の勤務体制に合わせていただいている。	週2～3回入浴しています。希望されない場合は時間や日にちをかえて声をかけています。ゆっくり入ってもらえるように時間をとっています。体調によってはシャワーや清拭で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	できるだけ利用者の方が安心して眠れるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の確認チェックを行い、服薬忘れや間違いがないように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションや体操などへの参加を促して、楽しく過ごしていただけるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員体制が十分ではないので、希望に沿った外出支援はできていない。外出の同行はご家族の対応が主になっている。	外出は庭に出る程度になっています。庭の桜の木の下で一人ずつ写真を撮ったり、お茶とお菓子を楽しんだりしました。感染症と職員の状況を見ながら、ドライブなども楽しめるようにしたいと話しておられました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人とご家族の希望に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に合わせて電話をして、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の方の言動で何か不快と思われる物がある場合は、片づけたり変更して、できるだけ落ち着いて過ごしていただけるように支援している。	ホールの壁には、季節ごとの職員手作りの飾り物が用意され、居室の入り口には名前を縁取った色とりどりの切り抜かれた花が華やかに飾られています。濡れたタオルをかけて加湿に配慮しています。対面式のキッチンには、ホールが見渡せて調理の音や匂いがして心地良い空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれの方のペースを大切に、穏やかに過ごすことができるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に、馴染みの物があれば居室に置いてもらうようにしたり、危険がなければ特に制限はなく自由にしていただいている。	ご家族と相談して、使い慣れた物や愛着のある物を持参してもらっています。家族の写真やお花を飾って、利用者が居心地よく過ごせるお部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	民家改修の施設のため、設備面ではいろいろと不便なことや制限があるが、利用者の方にはできるだけ安全に過ごしていただけるように取り組んでいる。		